

第82号

公立富岡総合 病院ニュース

- ●夏風邪に注意
- ●夏の食中毒予防
- ベッドコントロールについて

- 搬送車(救急車)が新しくなりました
- 職場紹介 2B病棟
- 研修医の紹介
- 地域医療連携だより



「ヒレナガ ネジリンボウ」 撮影者: 黒澤恵子

富岡地域医療企業団

立富岡総合病院

〒370-2393 群馬県富岡市富岡2073-1

3 0274-63-2111 **2** 0274-64-1406



http://www.tomioka-hosp.jp

(①プール熱

夏風邪に注意

小児科 小板橋実希子

臨床症状が異なってきます。治 多くの血清型があり、型により あります。アデノウイルスには 膜炎、脳炎など重症化する例も 胃腸炎をきたすこともあります。 状は発熱・咽頭炎・結膜炎の他に す。潜伏期間は2~10日で、症 以外での感染も多くなっており 最近は季節に関係なく、 で感染し流行することから「プー どで接触感染し、感染力が非常 物で汚染されたタオルや衣類な 飛沫(空気)感染の他に、分泌 に強いです。かつて夏にプール デノウイルスによる感染症です。 頭結膜熱」のことで、原因はア 合併症として、肺炎、まれに髄 ル熱」と呼ばれていましたが 「咽頭結膜熱」と呼ぶ方が適切で いわゆる「プール熱」とは プール 咽咽

②手足口病

すが、 なく、 は本人の状態により判断してか 関の受診が必要です。登園登校 いてぐったりする時には医療機 炎や脳炎を合併しますので、 は輸液を行います。まれに髄膜 摂取ができず脱水になった時に して解熱剤を使用したり、水分 根本的な治療はなく、高熱に対 です。口の中が痛いため食欲が 染経路は飛沫あるいは接触感染 16とエンテロウイルス17で、感 原因はコクサッキーウイルスA 秋から冬にかけてもみられます。 れる病気です。夏季のみでなく い水疱がみられ、 に膝や大腿、 発熱とともに手掌、 数日の潜伏期の後に、 数日の経過で改善します。 水分がとりにくくなりま 臀部) 口内炎もみら 足底 に小さな固 軽度の (まれ 吐

まいません。

園登校の出席停止期間は

主主要

を共有しないことです。

なお登

症状が消退した後2日を経過す

るまで」となっています。

日で改善傾向になります。

予防は手洗いうがい、

る治療)のみで、経過は4~5療は対症療法(症状をやわらげ

③ヘルパンギーナ

呼ばれる場所に水疱ができる発 登園登校は本人の状態により判 注意すれば経過は良好です。 ンテロウイルスにより、 痛がみられることもあります。 熱性疾患です。嘔吐、 断してかまいません。 療薬はなく対症療法のみです。 が、経過は3~6日で、 ため食事が取りにくくなります で、急に高熱がでて喉の痛みの します。潜伏期間は2~4日間 おもに初夏(6~7月) 路は飛沫あるいは接触感染です。 原因はコクサッキーウイルスやエ 喉の奥が赤くなり、 口蓋弓と 腹痛、 脱水に に流行 感染経

が違えばその都度感染します。 が違えばその都度感染します。 咽頭状を呈さない人もいます。 四月 とのウイルス 検出は1週間程 からのウイルス、エンテロウイル度、 糞便中へのウイルス排泄は度、 糞便中へのウイルス排泄は度、 糞便中へのウイルス 開らかな症 と で と の で、 流行する 血 清型 は 多 を 獲得しますが、 血 清型 は 多 を 獲得しますが、 血 清型 は る で 、 流行する 血 清型 は を 獲得しますが、 血 清型 は 多数 を 獲得しますが、 血 清型 は る い ます。 咽頭 が 違えばその都 度感染します。

子どもの発熱時の対処

- □体温グラフをつけて、全身状態の観察
- _____ □湯冷まし、お茶、イオン飲料などで水分補給
- □熱いところをアイスノンや冷却湿布で冷やす
- □さむがるときは、着るものや布団などで保温
- □食事は消化の良いものを
-]解熱剤は食欲なくつらそうな時に使用

夏の食中毒予防

技術部栄養科 山田真弓

食中毒は1年を通じて発生しますが、気温と湿度が高くなると細菌の増殖が活発になるため細菌がもたらす食中毒が多く発生します。細菌は増殖しても食べ物の見た目や味は変わらず匂いもしません。そのため食事を準備する時には食中毒予防の3原則を心掛けましょう。

①「つけない」

食中毒を起こさないためには、食中毒の原因となるウイルス、有害物質などを食品や調理器具につけないことが大切です。そのためにはまず、手を良く洗い清潔に保つことです。調理前はもちろん、生の肉や魚、卵などを扱った後も丁寧に洗浄しましょう。その他にふきんやスポンジなども、熱湯や塩素で消毒し細菌を寄せ付けないようにしましょう。

②[ふやさない]

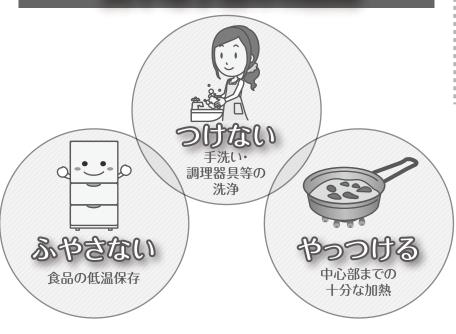
この時期は屋外だけでなく屋内も高温多湿になりがちです。 食品は室温で置いておかずに、 冷蔵や冷凍の必要な食品は持ち帰ったらすぐに保管します。夏場は冷蔵庫内の温度も上がりやすくなっていますので、冷蔵庫の扉の頻繁な開閉や食品のつめこみ過ぎに注意しましょう。

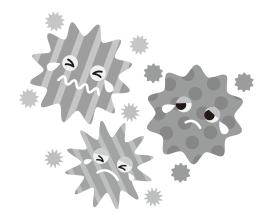
③[やっつける]

食品は中心までしっかり加熱すること、生食または生焼け状態の料理は控えるほうが安全です。調理澄みの食品や、残りものを温める時も十分に加熱して食べるようにしましょう。冷凍した食材を解凍するときは、細菌の増殖を防ぐため自然解凍せず冷蔵庫や電子レンジを使いましょう。

賢くおいしく予防するには、抗菌、防腐作用に優れた梅干やしそ、ネギ、生姜、ニンニク、わさび、酢などの食品が効果的です。料理にたっぷり添えましょう。日頃から細菌を「つけない」「ふやさない」「やっつける」を習慣づけるだけでなく、規則正しい生活とバランスのとれた食事を摂取することを心掛け、抵抗力をつけておくことも大切です。

食中毒予防の3原則





ベッドコントロールについて

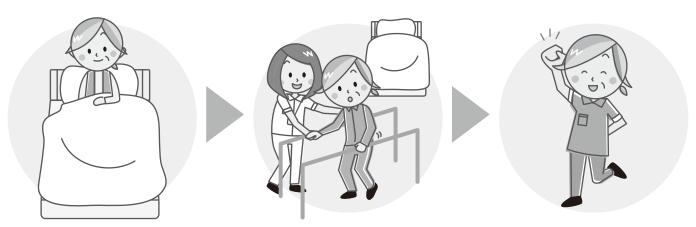




Albreau Albreau

入院中、患者さんの病状や治療方針に合わせて、病院内で他病棟 (入院時とは異なる病棟)へ移動となることがあります。移動への ご協力をお願いします。





ベッドコントロールには、

- ①緊急入院のベッド調整・確保
- ②転棟・転入のベッド調整
- ③退院予定患者の把握
- ④ 予約入院のベッド調整・確保などがあります。

適切なベッドコントロールのために、毎日の退院患者数や入院予約患者数、病床利用率の把握をしています。

適切なベッドコントロールが行えるように、平日毎朝各病棟マネジャーが集まり、その日の入院予約と退院患者状況を共有しています。入院後には、身体の状態や治療方針等により、入院した病棟から他の病棟へ移動することがあります。例えば、急性期の病棟へ緊急入院した場合、急性期の治療が一段落して状態が安

定し、在宅復帰に向けての準備が必要となった患者さんは地域包括ケア病棟へ、もう少し治療の継続が必要な患者さんは一般病棟への移動の協力をお願いしています。

病棟移動による入院環境の変化は、患者さんやそのご家族に負担をおかけしますが、入院から退院まで満足していただけるよう、医師・各部署看護マネジャー・薬剤師・リハビリ・医療ソーシャルワーカー等多職種と連携しています。各専門職が質の高い医療・ケアの提供や療養環境作りに心がけていきたいと思います。

ベッドコントロールの担当看護師として、今後も多職種と連携し、入院病床の確保や病床の有効活用をリアルタイムで、迅速かつスムーズに対応します。



搬送車(救急車)が新しくなりました







当院は、富岡甘楽地域の災害拠点病院となっています。災害拠点病院の役割の中には、被災地外の拠点病院とヘリコプターによる傷病者の受入などもあります。

災害拠点病院として、傷病者を搬送する ための救急車を配備する必要があります が、経年劣化が激しくなり、今回救急車を入 替えることになりました。

平素の病院救急車は、富岡総合病院と七

日市病院間の検査受診などの患者搬送車として日常的に活躍しています。また、いざ大規模災害が発生した場合には災害派遣医療チーム(DMAT)を被災地や救護所に派遣するためにも活用します。

こちらは5月27日に行われた富岡市防災訓練での一コマです。関係機関と連携し、もしもの時のために訓練にも積極的に活用していきます。

2B病棟は、ICUを併設する全科を対象とした急性期・集中治療を担っている病棟です。患者さんの疾患も多岐に渡ります。スタッフ数は44名と他病棟よりも多い看護師・補助者が勤務しています。また、全科対象となるため、多数の先生方や他職種の方とも連携をとりながら患者さんの治療・看護にあたっています。急性期の病棟として常に緊張を伴う病棟ですが、緊急での入院、集中治療に戸惑う患者さん・ご家族へ寄り添い、治療へ取り組める病棟でありたいと日々カンファレンスや学習会を積み重ねています。

このように、とても緊迫した日々ですが、2B病棟は医師、看護師、薬剤師とコミニュケーションが良く明るい病棟です。そのため、スタッフ間での協力体制も良く、子育て中でも働き続けられる病棟です。

今後も、富岡甘楽地域の急性期病院を 担う病棟として、スタッフ全員でがんばって いきたいと思います。





研修医 I 年目の杉野陽彦と申します。出身大学は群馬大学です。最近始めた将棋を趣味にしています。4月に来たばかりで慣れないことが多いですが、病院関係者や医療スタッフに支えられ、医師として成長していると感じます。研修医生活はなかなか忙しく平日は病院と宿舎を往復する日々です。休日を利用して徐々に富岡について詳しくなっていけたらと思います。自分の能力を高めつつ、富岡市の医療に貢献していくことを目標にしています。よろしくお願いします。

杉野 陽彦



研修医一年目の野口千菜津です。群馬大学出身で、大学ではバドミントン部に所属していました。映画を観るのが好きです。まだまだ未熟で不慣れな事も多く、日々先生方をはじめ医療関係者の皆様には大変お世話になっております。たくさん学んで、早く仕事を覚えて、患者さんや医療スタッフの皆様のお役に立てるよう努力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

野口 千菜津



研修医I年目の根岸駿と申します。駿と書いて「たかし」と読みます。前橋市出身です。趣味はスポーツで、小3から高3まで野球をやっていました。動物が好きで犬を飼っています。かわいいです。将来は整形外科を志望していますが、専門外の疾患に対しても必要最低限の初期対応を確実に行える医師になりたいと思っています。この2年間で幅広い症例を学び、I日でも早く地域に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

根岸 駿





研修医一年目の喜多碧です。今年は富岡総合病院、来年は群大病院で研修します。初日から先生方やスタッフの皆さんには温かく迎えていただいて、毎日充実した研修生活を送ることができています。私は旅行が趣味なのですが、旅行の醍醐味はそこに暮らす人々の生活を知れることだと思っています。今年は富岡の生活に触れて、富岡の魅力をいっぱい知っていきたいと思います。短い間ですが、どうぞよろしくお願いたします。

吉多 碧



皆さんこんにちは。研修医2年目の原健太郎と申します。出身は前橋市で、休日にはドライブなどに出かけています。富岡総合病院の雰囲気や環境に魅力を感じ、昨年から初期研修をさせていただいております。最初の1年間はあっという間でしたが、職員の方はもちろん患者さんからも多くのことを教えていただき、少しずつ仕事の幅を増やすことが出来ました。これからはその経験や知識をより深めていけるよう努めて参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

原 健太郎



研修医I年目の栗原昌孝と申します。出身大学は東邦大学です。趣味は釣りです。生まれは前橋市なので群馬県内に就職を希望しており無事2018年4月から富岡総合病院で働かせて頂くことになりました。富岡の病院関係者や医療スタッフの方々は本当に親切で不慣れな自分にも丁寧に接してくれます。少しでも早く病院スタッフのI人として力になれるよう成長していきたいです。研修医生活は忙しく釣りをする時間はなかなか取れませんが富岡市の釣りが出来るスポットを探したいと思います。これからよろしくお願いいたします。

栗原 昌孝



研修医生活を

充実した





地域医療連携だより

平成30年度公立富岡総合病院主催 研修・市民公開講座予定のお知らせ

◎緩和ケアネットワーク研修会(ケア・カフェとみおか)

日 時 平成30年9月21日(金) 19時~

参加対象者 西毛地域において、医療・介護・福祉のケアに 従事している方。



◎緩和ケア研修会

日 程 平成30年11月4日(日)

参加対象者 がん診療に携わるすべての医師 および医療従事者



◎公立富岡総合病院市民公開講座

日 時 平成30年11月9日(金) 18時30分~

場所ヴァンヴェール

講師 『死にゆく患者(ひと)と、どう話すか』で 著名な日本赤十字社医療センター 化学療法科部長 國頭 英夫 先生

参加対象者) どなたでも参加いただけます



◎すべての看護師のための看取りのケア研修会

日 程 平成31年1月12日(土)・13日(日)

(参加対象者) 医療・介護・福祉施設に従事している看護師



※日程は変更になる場合があります。事前にお知らせいたしますので ご確認下さい。また、ホームページでもご確認いただけます。

お問い合わせ先

公立富岡総合病院 患者支援係(がん相談支援センター)
TEL.0274-63-2111 FAX.0274-64-1406
E-mail msw2005@tomiokahosp.jp